

埼玉の くらしと 社会保障

2017年1月1日発行 第249号(毎月1回発行)
発行 埼玉県社会保障推進協議会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-12-8
自治労連会館1階
電話048-865-0473 fax048-865-0483
(ホームページは「埼玉社保協」と検索下さい)

2017年 あけましておめでとうございます。

埼玉県社会保障推進協議会 会長 神谷 稔



今年は丁・酉（ひのと・とり）年です。

「果実が極限まで熟した状態・酒熟して気の漏れる状態」で「運気が取り込める状態」ですので「成果が得られる可能性がとめどなく高まった状態」の年です。この「成果」を現実のものとしていく取り組みをしなければならない一年です。

昨年までも「戦争か平和か」「幸福な生活か困難な生活か」がキーワードでした。このためにも、喫緊の課題は安保法制（戦争法）の具体的発動と「殺戮」をさせないことです。

「テロ」を許さない社会を目指すことも大事な取り組みになります。差別と貧困の温床を打ち破り、お互いが分かり合う社会が「テロ」を根絶していく道であり「武力」では決して解決しないことを確認しましょう。

そして、立憲主義を踏みにじるような政治を許さず、民主主義を守り抜かなくてはなりません。

更に、世界に誇れる「憲法9条」と主権在民と民主主義を具現化し私たちの幸福と生活を守り抜いている「憲法25条」をまもることは「日本のこころ」を世界に示すことになります。「憲法精神」で日常生活が隅々まで満たされる生活の場を創っていくことが今を生きる私たちとこれからの世界を担う人たちへの強いメッセージになります。

超高齢化社会でも活力と幸せを失わない社会を創り出します。これは高齢者が社会の一員として尊敬され、活動し、生き生きと生活し続けられる状況を創り出す活動を意味します。

この4月以降の年金や医療介護福祉の負担増を許してはなりません。尊敬と共同、支え合いを基に、生活を破壊しようとする勢力との妥協の無い闘争が今年も続きます。

一致できる課題で団結し、社会・政治を国民・県民のものに創り替えましょう。そして、私たちの組織がしっかりと土台と地域・職場に根を張る姿を早急に強化することが鍵になります。

医療・介護の大運動、17地域春闘、 ひとつにむすび 戦争法廃止！ つくりだそう、安心して暮らせる職場と地域 1・27社会保障新春学習決起集会

日時 **1月27日(金)**
18:30開会(受付18:00~)
会場 **埼玉教育会館2階ホール**
JR浦和駅西口下車徒歩10分

講演「連続する社会保障制度改悪と
私たちのたたかいの展望」(仮題)

講師 後藤 道夫氏
(都留文科大学名誉教授)



~参加費は無料です~

18年総改選を前に、住民のいのちを守る要請を強めよう

第25回埼玉社保協総会



12月17日、埼玉社保協の第25回総会が開かれました。会場のときわ会館には17団体17地域社保協から83人が出席しました。伊藤稔副会長の開会挨拶につづいて、主催者挨拶に立った神谷稔会長は「立憲主義が破壊され民主主義が危機にある。困難を県民の団結で打開しよう。」と述べました。議長に埼玉社保協土建の武山辰雄さん、春日部社保協の吉田昌江さんを選出、来賓の秋山文和県議(共産)、中川浩県議(改革の会)、中央社保協の山口一秀事務局長からご挨拶をいただきました。千葉県社保協など3団体、県内25自治体の首長からメッセージが寄せられました。



芝田 英昭さん

川嶋事務局長が情勢と活動経過の報告、新年度の運動方針案を提案しました。決算報告と予算案の提案のあと、沖田晴美さんが会計監査報告を行いました。質問が1人、討論では5人が発言しました。新市長が打ち出した市民サービス切り捨ての方針を、緊急署名など市民ぐるみの反対運動によってすべて撤回させた経験(新座社保協)、子育てに関わる運動を展開し、厚労大臣交渉を行なって子ども医療費ペナルティ撤回を要請した報告(新婦人)、来年のさいたま市長選挙を念頭に、市民の要求をまとめ住民本位の市政を考える市民アクションの取り組み(市民アクション代表)、JA厚生連の売却と労働組合のたたかひの現状や地域医療を守る決意を表明(医労連)、市民からの相談に対応して、さいたま市の行き過ぎた

滞納・差し押さえの実態を報告(埼玉生連)など、どの発言も実践に裏打ちされ、議案をおおいに深めるものでした。質問に答えて、さいたま市の債権回収課の滞納・差押えにより市民が迫込まれていた実態について、埼玉社保協の見解を報告しました。

情勢と経過の報告、運動方針案、決算報告と予算案を発言を含め拍手で確認しました。新年度の役員について原富悟副会長が提案、拍手で確認し四役は全員再選されました。新役員を代表して神谷会長が挨拶、酒巻圭一副会長が総会アピールを提案、拍手で確認しました。

総会は、昼食休憩後、午後からは記念講演会に移り三人の講師の報告と、会場からの発言を交えて意見交換を行ないました。講師は花俣ふみ代認知症の人と家族の会埼玉県支部代表が厚労省の介護保険部会の議論の様子や結論の要点を解説して頂きました。芝田英昭立教大学教授からは社会保障の基本的な役割を解説され、今後の運動の確信となる報告をしていただきました。進行役を兼ねた原富悟副会長からは自治体要請キャラバンの回答書の特徴を解説されました。会場からの発言に各講師が応え、原富副会長が閉会挨拶を行ない、充実した総会となったと感謝を述べ閉会となりました。



花俣 ふみ代さん

新年度の4役(再任)

会長	神谷 稔	医師、医療生協さいたま
副会長	浅井 春夫	立教大学教授
	畔上 勝彦	自治労連埼玉県本部委員長
	伊藤 稔	埼玉県労働組合連合会議長
	酒巻 圭一	埼玉土建一般労組副委員長
	芝田 英昭	立教大学教授
	柴田 泰彦	個人
	中山 福二	弁護士、自由法曹団
	原富 悟	労働者教育協会常任理事
	菊池 正美	埼玉県商工団体連合会副会長
	渡辺 繁博	自治体問題研究所事務局長
事務局長	川嶋 芳男	医療生協さいたま
事務局長次長	段 和志	埼玉土建一般労働組合
	舟橋 初恵	埼玉県労働組合連合会
	保土田 毅	医療生協さいたま

第25回埼玉社保協総会（順不同）

【来賓】埼玉県議会議員 日本共産党 秋山 文和 様
無所属改革の会 中川 浩 様
中央社会保障推進協議会事務局長 山口 一秀 様

【祝電・メッセージ】

神奈川県社会保障推進協議会
群馬県社会保障推進協議会
社会保障推進千葉県協議会
埼玉県 知事 上田 清司様
幸手市 市長 渡辺 邦夫様
吉川市 市長 中原 恵人様
白岡市 市長 小島 卓様
草加市 市長 田中 和明様
蕨市 市長 頼高 英雄様
ふじみ野市 市長 高畑 博様
八潮市 市長 大山 忍様
富士見市 市長 星野 光弘様
鴻巣市 市長 原口 和久様
和光市 市長 松本 武洋様
久喜市 市長 田中 喧二様
秩父市 市長 久喜 邦康様
深谷市 市長 小島 進様
志木市 市長 香川 武文様
川口市 市長 奥ノ木 信夫様
坂戸市 市長 石川 清様
滑川町 町長 吉田 昇様
寄居町 町長 花輪 利一郎様
上里町町 町長 関根 孝道様
伊奈町 町長 大島 清様
毛呂山町 町長 井上 健次様
三芳町 町長 林 伊佐雄様
神川町 町長 清水 雅之様
杉戸町 町長 古谷 松雄様

格差と貧困をなくすために頑張ると決意

「すべてのくらしは25条から 11・26埼玉集会」

2016年11月26日、「すべてのくらしは25条から 11・26埼玉集会」がさいたま市内で開催されました。実行委員団体は労働組合や奨学金ネットワークなど13団体が構成して、企画・運営に携わりました。市民が政治を動かす新しい流れが生まれつつある今、憲法25条をめぐる大きな意味を持つ集会になったと思っています。

一昨年は戦争法反対の運動が幅広い市民のうねりに発展しましたが、25条生存権の問題でも10月28日、日比



谷野外音楽堂に4000人を超える人たちを集めて、平和を願い、人間らしい暮らしを求める声を高く上げました。

安倍政権が社会保障を次々と後退させ貧困が広がり、多くの市民の暮らしが瀬戸際に追い込まれているのに、生活保護利用者への根強い偏見は消えず、若者と高齢者、正規雇用と非正規雇用など、国民の分断と対立がむしろ強まっています。私たちが暮らす、この埼玉から分断の縛りはずし、25条を守る世論づくりをスタートさせようと、春から準備を重ねてきました。

集会の開会、閉会のあいさつは、後援団体となっていた埼玉弁護士会、埼玉司法書士会の代表が務めました。前半は、芝田英昭立教大学教授が講演。芝田教授は憲法がつけられた歴史的経緯を詳細に解説し、安倍政権の大企業優遇政策と社会保障解体を厳しく告発しました。

続くリレートークでは7人の当事者、関係者の皆さんが抱える困難を訴えました。学校事務職員の方は事務室から見える子どもの貧困として、「給食だけが栄養源の子どもは夏休み後すっかり痩せて登校する」、「子ども医療費助成制度が普及しているが親が診療時間内に帰宅できないので子供を医者に連れていけない」など貧困が子供をむしばんでいると告発。さらに、学校現場に非正規の教師が増えている問題、長時間労働で自分の健康すら守れない教職員の状況が話されました。



医療の問題では国保税滞納への過酷な取り立てと差押えで2人の自殺者が出たと告発。奨学金の問題、労働問題、厳しい年金生活の問題、介護の問題でも切実な実態が語られました。

生活保護の問題では、引下げは違憲と主張し訴訟の原告になったが、「働かないで、人が払った税金で、年金より多いお金をもらっているのに不満を言うのか」と、私の最後の友人たちから批判された。その後誰とも連絡がとれない。友人の一人は、子どもの大学の費用と親の介護のために、老後の貯金を使い果たしたと。他の一人は、長時間労働による体調不良や不安定な収入、職場のパワハラを嘆いていました。生活保護への批判は、利用していない人の悲鳴のように聞こえますと語りました。

リレートークの後、民進党、日本共産党、無所属改革の党の県議代表が連帯を表明、埼玉労福協、連合埼玉、埼玉労連という路線を違える労働団体それぞれが格差と貧困をなくすために頑張ると決意を語り、三者が舞台上で固い握手を交わしたときには、ざわめきとカメラのシャッターを切る音が会場いっぱい響きました。

まだ小さな一歩ではありますが、これを皮切りに、誰もが健康で文化的な最低限度の暮らしを権利として保障される社会にするまでさらに取り組みを前進させようと実行委員会は決意しています。

(埼玉県生活と健康を守る会連合会事務局長 高藤登喜恵)

ひとりぼっちの高齢者をなくそう！

第22回埼玉県高齢者大会

11月29日、第22回埼玉県高齢者大会が開催され、約350人が参加しました。

オープニングは、年金者組合合唱団によるうたごえ企画が行なわれました。

記念講演

は、NHK社会番組部チーフ・プロデューサーの板垣淑子さんを講師にお招きし、「無縁社会をのり越える、『結縁社会』づくりを！」というテーマで行なわれました。

板垣さんは、NHKスペシャル「老人漂流社会」の映像を交えながら、低年金・無年金の高齢者が増え、医療・介護の自己負担が増している中で、団塊世代に老後破産などのリスクが高まっていることを語りました。そして、認知症の人を介護していると、仕事をしたくてもできない、預かってもらえるところが必要となるといった、「日中独居」がこれからの重要課題として指摘されました。

そして、URでの孤立死をなくすボランティアグループの取り組みを紹介し、『老人漂流社会』から抜け出すためにも、地域の力をアップし、つながりづくりをしていくことが重要になっていることを語ってくださいました。

講演の後の「元気になる交流企画」では、年金者組合浦和支部の皆さんによるフラダンス、医療生協フラメンコサークルによるフラメンコ、医療生協の江田直美さんによる笑いヨガが行なわれ、大いに盛り上がりしました。

参加者からの感想には、「年金者組合合唱団が素晴らしかった」、「とてもよい講演でわかりやすかった」、「自分のこととして考えた」、「地域の活性化の大切さを感じた」、「フラダンス、フラメンコが美しかった」、「笑いヨガを支部でもやりたいと思った」、「来年も参加したい」などの声が寄せられました。一方、「分科会を持って交流した方がよい」との意見もありました。



介護事業所約60社を訪問し、2社が参加 社会保障をよくする蕨の会 2部構成で学習会

11月19日（土）に蕨自治会館で社会保障をよくする蕨の会主催で介護保険についての学習会を53人の参加で開催。

学習会は2部構成で、1部で埼玉社保協事務局長の川島芳男氏を講師に「国が目論む介護・医療保険の改悪」を学習、2部では意見交流会を行いました。

1部の学習では、戦後の社会保障の歴史とこれまで安倍政権が進める社会保障改悪、そして、国会で行われている社会保障制度の行方について学びました。

税と社会保障一体改革によって、社会保障が自助・共助を基本とする戦前の戻ろうとしており、財界の要求で国が社会保障制度の解体・TPPによって市場化がすすめられ、膨らむ防衛費の基で社会保障費が削られていくことを学ぶことができました。

今回の学習会を開催するにあたっては、自治体が発行する介護マップにある事業所約60社を訪問し、学習会のチラシを持って参加を呼び掛けてきました。2部の意見交流会では、呼びかけたうち2社から参加してもらい、参加者とともに意見交流が行えました。参加者からは、介護保険を使いたいと思っても使えない現状。事業所からは、改悪によって、限られた中でしか介護にたずさわれない現状について聞かせてもらいました。

参加者からは、「事業者もがんばっていて、自分もできることを行っていこうと思う。」と意見もあり、これからの運動に活かせる学習会でした。



(社会保障をよくする蕨の会 春日 健一)